

平成31年度・令和元年度 学校自己評価表 米子松蔭高等学校

学校教育目標 「社会で真に役立つ実践的な人材の育成」	
① 自主自立の精神の涵養	責任と義務を尊重しつつ、自ら進んで目標に向かって努力する精神を養う。
② 人間性の陶冶	規律を守るとともに、人の苦しみや悲しみを正しく理解し、適切な行動のできる豊かで調和のとれた健全な人格の育成をめざす。
③ 勤労を尊重する精神の育成	勤労を尊重する精神を養い、社会に貢献しようとする意欲を育成する。
④ 進路指導の充実	生徒の興味・適性・能力を尊重し、適切な進路の決定ができるよう指導の充実を図る。
⑤ 学習指導の充実	わかりやすい授業を心がけ、生徒の適性に応じた指導に努める。
⑥ 生活指導の充実	生活面の指導を大切に、正しい服装容儀、規律ある生活態度で生きる姿勢を育成する。
⑦ 部活動の充実	顧問と生徒が目標に向かって共に努力してゆく中で、協調性・責任感・忍耐力を養う。

本年度の重点目標
建学の精神に基づく特色ある教育を行い、社会に有為な人材育成に努める。知・徳・体のバランスがとれた人作りを目標とし、学習指導、生活指導、部活動に力を入れる。生徒の人間の成長を促し、生徒・保護者の夢につながる進路指導を行い、その成果により本校の社会的評価が高まり、本校が発展することを目標とする。

評価について A 達成できた B 概ね達成できた C やや不十分な点あり D かなり改善の余地あり E 全く不十分 () 評価せず または 評価できず

学年分掌	前年度末の状況	今年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○ (教務) 生徒による授業アンケートの実施や、相互授業見学など学習指導の充実に取り組んだ。ICTの積極的な活用により、魅力的でわかりやすい授業を展開できるよう、引き続き取り組んでいきたい。 ○ (図書) 資料相談を丁寧に行い、豊富な資料提供に努めた。授業で利用しやすいコーナー作りや書架の配置の見直しを行った。生徒がほっとできるような空間をつくることを心掛け、引き続き取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導の充実をさらに図る。 ○ 授業時間の確保に努める。 ○ 朝読書企画の定着を図る。 ○ 授業支援、広報活動の充実を図る。 ○ 誰にも使いやすく、心がほっとするような環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレット端末を用い、ICTを効果的に生かした授業の促進を図る。生徒による授業アンケート、相互授業見学は継続して実施する。 ○ 月間・週間計画、日課の調整や変更を迅速に行う。 ○ 生徒の自発的な活動となるよう促す。 ○ 常に丁寧なレファレンスを心掛け、豊富な資料提供、授業支援につなげる。生徒とともに魅力的な図書館を広報することに力を入れて取り組む。 ○ 必要な資料にアクセスしやすいよう案内・サインを一新する。担当職員は生徒・教職員がいつでも安心して利用できるよう、あたたかく丁寧な対応を常に心掛ける。 					
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入試、渉外業務ともに準備にゆとりを持ち、さらに円滑な業務遂行につとめる。 ○ 専門部統合により、各活動に一体感を持った運営ができるよう、松萌会役員との連携強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 円滑で正確な入学試験事務の実施 ○ 学校と保護者との協力関係の構築 ○ 環境美化・環境保全に努める ○ 避難訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出願から新生説明会までのスケジュールを入試事務スタッフ全員が周知し、各自が責任もって役割を果たす。 ○ 説明会資料、出願書類等、中学校や受験生に対してわかりやすい文章表記となるよう、昨年度問い合わせのあった箇所の表記を見直す。 ○ 松萌会役員とのより一層の連携強化を図る。 ○ 松萌会事業の周知の方法を工夫することで参加者を増やし、活発な活動を目指す。 ○ 清掃用具の管理と校舎内外の清掃の徹底。 ○ 破損箇所の速やかな修繕に努める。 ○ 火災・地震・津波を想定した訓練を実施する。生徒に迅速な避難行動を促し、災害から身を守る意識を身につけさせるよう努める。 		○		○	○
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 就職 ○ たえ好景気であっても、評価が「A」であっても大切なことは「生徒の能力・適性に合った受験先の指導」で企業のネームバリューではない。生徒・保護者に理解を促したい。 ○ 就職するという心構えを再度伝えることに力を入れた。 進学 ○ 専門学校や私立大学のAO・推薦入試においては結果は良好であるが、私立・国立大学一般入試においては良い結果とは言えない状況である。 ○ 学力向上のために、授業の大切さを促していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人ひとりをよく理解し、能力・適性に合った進路指導に努める。 ○ 早期離職防止に努める。 ○ 生徒それぞれの希望する進学先への合格を目指す。 ○ 進学に対する意識の向上や日々の学習に対する姿勢を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「進路総合評価」「進路適性検査」を参考にし、担任又は就職・教育支援担当者、カウンセラー及び部活動顧問、家庭さらに関係機関との連携を密にしながら、個別面談を重ね、適切な進路指導に努める。 ○ 県内外の卒業生の就職先を訪問し、追指導を行なう。また、旧担任及び部活動顧問と連携し、仕事の継続を説く。尚、在学中は内定者を対象にした校長訓話・進路講話等行ない、定着するように導く。 ○ 面談等によって生徒たちの学習意欲を促し、目標を明確にさせ、授業・講習・Classi・サブリなどで学習効果を高めていく。 ○ 各学年部と連携し、望ましい授業環境と進路講話等で促していく。 					

学年分掌	前年度末の状況	今年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 30年度より新入生合宿が廃止され学校でのオリエンテーションとなった。三瓶での2泊3日の張りつめた空気で行っていた内容をやり方は変わっても身につけさせ挨拶や学校の方針等をオリエンテーションで学ばせる。 ○ 立ち番指導や日頃の指導を通し継続して生徒の安全に努める。 ○ 校則など規則について保護者が理解できるよう、生徒手帳の内容を状況に応じて改善が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣を身につけさせる。 ○ 生徒が安心して通うことができるよう指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入生オリエンテーションを通して学校生活に早く慣れさせる。 ○ 挨拶の徹底を全校集会やルームなどで呼びかけるとともに、通学指導などで教員からも積極的に声をかけてもらうようにする。 ○ 服装規定の遵守のため服装指導を徹底する。 ○ 社会のルールやマナーを理解し守るよう指導する。 ○ 登下校中に事故や被害に遭わないよう安全指導を徹底する。 ○ いじめを許さず、見逃さない。生徒の言動に変わった様子はないか注意する。 		○		○	○
人権教育推進部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権学習、とくに人権ホームルームを、全体学習、クラス別学習を通じて実施した。鳥取県人権教育基本方針(第2次改訂)をふまえ、各学年、自他の権利を基礎にすえたグループ学習を推進してきた。また、ネット・SNS問題にも意欲的に取り組んだ。アウティングなどの差別助長行為、プライバシー侵害などの情報モラル教育を人権教育として取り組んだ。 ○ 言葉遣いアンケートを実施・集計後、調査・啓発に努めた。心ない言葉に傷つく生徒がいることを、自らに関わる問題としてとらえた。人権講演会は、講師の先生に渾身の力を振り絞ってご実施頂き、人権学習でも活かされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同和教育で培われてきた原則、鳥取県人権教育基本方針(第2次改訂)をふまえ、自他の権利を基礎にすえた人権学習を推進していく。 ○ 西部地区人権・同和教育振興会議第3回研修会を、当番校としてスムーズな運営ができるよう創意工夫に努める。 ○ 言葉遣いアンケートを実施し、自他の言動を振り返り、心ない言葉の防止をめざす。人権教育講演会を、人権課題に意欲的な方をお招きして実施し、人権ホームルームにも活かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育ホームルームにおいて、毎時間、育てたい資質・能力を明らかにして取り組む。具体的に身につけさせたい知識・技能(スキル)・態度をふまえ、「人権のための教育」を推進する。 ○ 鳥取県教育委員会事務局西部教育局担当者様と連携を密にし、公開授業・全体会・グループ協議の内容充実を努める。公開授業に向け、人権課題としてのネット問題に意欲的に取り組む。 ○ 前年度実施の言葉遣いアンケートをふまえた啓発に努める。2学期に今年度もアンケートを実施し、とりまとめ啓発する。人権教育講演会に向け、講師との交渉を進める。 		○	○	○	○
教育相談・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別の支援計画の作成について、全教員に作成についての共通理解ができるようにしておく必要がある。 ○ 支援が必要な生徒の多様化、増加に対し、支援体制のあり方をさらに検討していきたい。 ○ 研修では情報交換もできるので、多くの教員に参加を呼び掛けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別の支援計画の推進 ○ 入学時からの連携作り ○ 学校全体として支援理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や他機関と連携し、早期に作成に取られるようにする。 ○ 教員間で情報交換を行い、支援の早期発見に努める。 ○ 担任だけで抱え込まずに、学年、教科担当、部活動顧問、外部機関等と連携を図って支援を進めていく。 ○ 担任、養護教諭、外部機関(医療・福祉等)を交えた連携会議を定例化していく。 ○ 研修会・講演会等の参加を積極的に促す。 ○ SC・SW・サポステ連携を通じて学校全体としての支援理解・学びを深めていく。 		○		○	○
広報	<ul style="list-style-type: none"> ○ オープンスクールの参加者を増やすことができた。志願者数・入学者数を確保することができた。 ○ Webをリニューアルし、円滑な更新・運営をすることができた。各種SNSの立ち上げ、公式キャラクター等、新たな試みに挑戦することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ オープンスクール、学校見学説明会・入試説明会の充実と参加者の確保 ○ 開かれた学校づくりの推進と学校ブランディング 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生・保護者・中学校への的確な情報発信 ・ オープンスクール等の実施内容の精査、円滑な運営 ・ 広報活動の充実 ・ Webの更新・管理運営 ・ SNS等による情報発信 		○		○	○

学年分掌	前年度末の状況	今年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校祭については時期に合わせた内容の見直しを考えていきたい。また、余裕を持って準備できるように早めに取り組む必要がある。 ○ 生徒総会で審議や報告できるように、早めの実施が必要である。 ○ 学校の中心として活動できるように、積極的に関わってきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事の充実 ○ 生徒会活動の充実 ○ 他分掌との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月のスポーツ祭および10月の学校祭が充実したものになるように、計画・実施をする。 ○ 各クラスの中央委員との連携を図る。 ○ 学校生活をより充実したものにするために、定期的に集まり議論する。 ○ 放課後の清掃点検を行う。 ○ ボランティア活動の呼びかけをし、生徒の参加を促す。 ○ 他分掌と、お互いの要請等により活動を計画・実施する。 		○		○	○
一年部		<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の確立 ○ 学習習慣の確立 ○ 家庭との連携 ○ 人権意識を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶と正しい服装を定着させる ○ 生活リズムを整えさせることにより、欠席や遅刻をしないように指導する。 ○ 日頃より各教科担当と連携を密に取り、家庭学習に取り組みやすいように指導をする。 ○ 配布物や連絡事項をClassiの校内グループにも掲載し、保護者が必ず受け取ることが出来るようにする。 ○ 状況に応じて保護者へ連絡をとり、情報交換を行う。 ○ 学級活動や学校行事を通じてお互いを思いやる心を育てる。 		○		○	○
二年部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら挨拶出来るよう継続して指導し、服装の乱れが出ればその都度指導していきたい。 ○ 連続した欠席や遅刻がある場合は早めに家庭と連携をとる。 ○ 日頃の家庭学習の大切さを指導していきたい。 ○ 生徒や様々な機会を通じて継続して呼びかけていく。 ○ 次年度も保護者に渡るように呼びかけを継続していく。 ○ 次年度もこまめに連携がとれるように努力する。 ○ お互いを認め合い成長できるように指導していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の定着 ○ 学習習慣の確立と進路意識の高揚 ○ 家庭との連携 ○ 人権意識を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の時間に見回り、あいさつや服装を徹底させる ○ 充実した生活が送れるように時間を守り、遅刻・欠席がないよう指導する ○ 聴く姿勢を高め、日頃の授業から集中して取り組むように指導する ○ 進路学習などを通じ職業観と進路意識の高揚を促す。 ○ 保護者との連携を深め、学校での状況や家庭での様子について共通理解を図る。 ○ 学校行事やクラスでの活動を通して他者への理解を深め、人を思いやる心を育む。 		○		○	○
三年部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最上級生として下級生の範となるという自覚を持たせ、3つの目標のさらなる定着を目指す。 ○ 各自が目標とする進路に進むためにも主体的に学習に取り組むことが大切であることを呼びかけ、生徒の意識を高める指導を行う。 ○ HRや学校行事を通し、仲間づくりや良好な人間関係構築に努めるよう声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の定着 ○ 主体的に学習に取り組む姿勢の確立 ○ 家庭との連携 ○ 人権意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「挨拶・返事」、「時間を守る」、「正しい服装」の定着と実践を図る。 ○ 自主自律に努め、最上級生としての自覚と責任を持って高校生活を送るよう指導する。 ○ 進路決定に向け、授業や家庭学習に目的を持って取り組める環境を整える。 ○ 保護者との連携を深め、学校での状況や家庭での様子について共通理解を図る。 ○ 学校行事や学級活動を通し、周囲を思いやり尊重する心と、目標の達成に向け互いに協力する姿勢を育む。 		○		○	○